

# 大学生の海外留学促進における 教職員引率の意義と役割

アジアから始まるグローバル人材育成と社会革新への一歩

---

カンダボダB.パラバート、小材 彩季、越智 朋美（立命館大学）

第18回 アジア太平洋カンファレンス

2020年11月14日（土）・11月15日（日）

## 2

# 目次

---

- 1. 序論:背景
- 2. 社会的ニーズと学生ニーズに合わせた海外留学の多様性
- 3. 超短期留学プログラム**GFP**の実践
- 4. 省察:大学生の海外留学の引率から得た学びと今後への課題
- 5. まとめ:引率教職員の役割



- **従来の大学教育の役割**→個々の専門分野の知識共有
- 近代社会のグローバル化とグローバル人材の必要性（山口他、2016）
- **学内の取り組み**→新カリキュラムの構築、経験豊富な大学スタッフ、留学生の受け入れ増加
- **学外の取り組み**→国内外での研修、国外大学と共同で行う学習等
- **海外留学は**、大学生の学びによりグローバルな視点を与えるための重要な役割を果たし、大学生にとって言語・文化・専門等を横断した学びの機会を与え、大学卒業後に役立てられる様々なソフトスキル（例えば、積極性、判断力、行動力、忍耐力等）を育むための有意義な機会となる

## I. 序論

---

- 海外留学プログラム：長期（1年程度）、中期（半年程度）、短期（1ヵ月から半年まで）
- 3つの柱： 提供するプログラム、参加する学生、業務を担当する教職員
- 本論は、教職員に注目し、特に学生の引率に際する知見を共有する
- 具体的には、**立命館大学**で展開している**超短期プログラム**の一種である**Global Fieldwork Program (GFP)**に焦点を当て、**学生引率を担当した教員と職員の取り組み**について情報共有する

## 5 2社会的ニーズと学生ニーズに合わせた 海外留学の多様性

---

- 海外留学の多様化:**社会的ニーズと学生のニーズ**
- **社会的ニーズ:** グローバル人材の確保「例えば、英語を中心とする言語力、積極性や実践力、グループワークスキル」
- **学生ニーズ:** 費用削減・時間的制約の解消（小林、2019）
- 従来の海外留学プログラム = 社会的ニーズ + 学生の課題を解決は同時に解決することが難しい
- 新しい海外留学プログラム開発 = **超短期留学プログラム**



## 6 2超短期留学プログラムは...

---

1. ALをもとに、TBL (Task-based Learning) , PBL(Project-based Learning)等を組み込んでる
2. 多くは1週間から1ヶ月未満で実施
3. 大学生の時間的制約と経済的負担の減少
4. カスタマイズしたプログラム内容
5. 運営・管理・安全を強化した教職員


# 7

## 2.1. 海外留学プログラムを担当する教職員の引率の意義と役割

- **海外留学の意義**→ 個人の意義と国の意義 （内閣 他、2014）
- 教職員は、参加する学生が現地到着してから出発するまでの時間を有効に活用できるようにプログラムの多岐にわたる業務を担当する必要がある（山口 他、2016）

**実践課題**→教職員引率の役割は何か？

### 3. 超短期留学プログラム**GFP**の実践

- 
- **GFP**は、**プログラム内容**、**参加者**、**サポート体制**の3点において特徴的
  - **GFP**は、参加者の言語力（英語）を問わない、実施期間は**1週間**の超短期で経費も安い、奨学金制度も導入している、**1週間**のプログラムであるため学生にとって時間と経済的な負担が少ない
  - **参加は**、立命館大学の正規生で学部・回生・国籍を問わず誰でもできる➡学生はキャンパスを横断した交流ができるようになり、普段と異なる学生と友達作りができる
  - **サポート体制**➡日本で実施する事前事後研修のサポートはもちろんのこと渡航先での引率もある
- 




## 9 3.1 引率を担当した教員の取り組みについて

- **事前研修、現地での引率、事後研修**の参加
- **事前研修**は春学期中に開催され、**GFP**の参加者に求められる活動・課題等の説明
- グループワーク開始、事前に回生・学部・男女差等で割り当てる
- **GFP**に参加する全ての学生と関係者の教職員が初対面
- 事前研修目的→情報共有・メンバー紹介
- **教員の役割**:動機を強めること、能動的な参加促進
- “教える”～“指導する”
- 例:各コースにおいて全体のリーダーを決める
- グループワークにうまく参加する方法と意義

## 3.1 引率を担当した教員の取り組みについて

- 
- フィールドワークの計画・フィールドワークのテーマ、調査課題と方法などをグループ内で決めさせる
  - ICT（Information Computer Technology）ツールを有効活用

### 事前研修における学生のハードル

- 初対面のメンバー、互いの短所や長所を探ること、コミュニケーション力やグループワークスキルが重要
  - ローカルカルチャーショックを経験
  - **学生相談:**英語力（主にスピーキング）、フィールドワークの進み方、マレーシアとベトナムの文化とコミュニケーションスタイルなどに関して
- 

## 3.1 引率を担当した教員の取り組みについて

### 現地での活動

- 団体行動、大学またはホテル待機
- 学生とのコミュニケーション
- 活動予定、進捗状況、体調管理、グループメンバーとのコミュニケーション、現地バディーとの交流等確認
- 発表の準備に関する相談に対応、英語の言い回しに関するもの、発表構成の微調整等

### 事後研修

- 学生の正課報告と振り返りを兼ねた口頭発表
- 発表準備のサポート
- 留学後の学び:英語力向上、異文化コミュニケーション力、短期・長期留学等

## 3.2 引率を担当した職員の取り組みについて

---

- 2019年度から職員引率
- 管理・運営体制の強化（Staff Development、職員研修）
- 基本的に教員と同じ行動
- 通常業務外→学生のフィールドワークの実態を把握
- 今回は、マレーシアとベトナムそれぞれのコースを引率した職員二名からの実践知を共有

## 3.2 引率を担当した職員の取り組みについて マレーシア

---



### 引率参加の目的

- 学生と行動を共にし、学生活動の把握
- 2つの問い
  1. 1週間という短い留学期間で何がきっかけとなり、どのように学生が変化するのか？
  2. 次の留学に興味を持つようになるのか？

## 3.2 引率を担当した職員の取り組みについて


### フィールドワーク中の学生の様子について

- 各班で食文化や観光等の調査テーマ、インタビューや参与観察等を行う
- 3つの「とまどい」を観察
- **語学の壁** 「現地に行くと思ったより自分の英語が伝わらない」「単語やジェスチャーでの会話となってしまう」
- **調査計画・方法の準備不足** 「フィールドワークをする目的、調査手法、調査場所の準備不足」
- **カルチャーショック** 「マレーシアの多民族国家性」「異国の料理、異なる宗教の背景、文化の背景」、五感を使った短期間の非常に大きなインパクト

### 職員の挑戦→我慢する

- 同行していると、「こうしたらいいんじゃない？」と声をかけたくなるこのような場面がたくさんあったが、今回はあえて「それでたとえ失敗や少し苦い思いをしても、そこから学ぶこともある」と考え、アドバイジングは行わなかった

## 3.2 引率を担当した職員の取り組みについて

- 
- 「1週間という短い留学期間で何がきっかけとなり、どのように学生が変化するのか、次の留学に興味を持つようになるのか」
  - わずか1週間の留学プログラムで参加学生の意識が変わる要因
  - 同世代のバディーとの出会い、現地での失敗経験、焦り、カルチャーショックなどの「とまどい」
  - 帰国後の学生生活や次の目標について考え直し
  - 留学後半年経った後の学生の様子から、一部の学生は**GFP**への参加をきっかけとして次のステップ（中長期の留学）に興味を持ち、準備を進めていた
- 

## 16 3.2引率を担当した職員の取り組み

---

ベトナム・ホーチミン（ホーチミン市人文社会科学大学）について

### 目的

- 現地へ引率するだけでなく事前研修から事後研修までプログラムに参加し、学生の成長や変化の過程を直に見ること

事前研修・プログラム参加・事後研修





## 3.2引率を担当した職員の取り組みについて

プログラムを振り返って **学生の声**

- 「長期留学プログラムに参加し、英語力を高めたい」
- 「次は、学部独自の留学プログラムを受講したい」
- 「**GFP**への参加が海外に目を向けるきっかけとなった」



## 4. 省察:大学生の海外留学の引率から得た学びと今後への課題

- 限られた時間で学生のアクティブラーニングを促す方法の再検討、ティーチング➡アシスティン
- 「どうすればいいですか」➡ 「これがいいと思う」は✕
- 意見交換の場を提供・客観的な検証の手助け
- **例えば...**フィールドワーク計画を検討する➡  
実行可能性・意見交換と集約・現地情報  
客観性

**課題** 学術的な観点...事前準備のフィールドワークの計画を設計する際に指導を徹底する必要性、コミュニケーションスキル向上のサポート

## 海外留学プログラムの三段階 (事前・進行・事後) における教職員の役割

---

### 事前

- 参加する学生の動機づけを行うこと
- グループワークの援助

### 進行中

- 気づきを促せること
- 安全保障及び危機管理を徹底すること

### 事後

- 経験を再認識させること
- 知識と経験をどのように将来の学業または職業に繋げるかを考えさせること

## 5. 最後に



- 一週間という短い期間の留学であっても、経験する学生は多くのことを学んでおり、リーダーシップスキル、語学力、グループワークスキル、異文化コミュニケーション力等が上達したとの報告
- **GFP**プログラム全体としては、大学が目指している留学を経験することによってできるグローバル人材育成に大きく貢献
- 経済的な支援の確保、新しい留学先を含めたプログラムの構築、引率を担当できる教職員の確保と支援等を整えることが重要
- **教職員引率に関する意見...**学生からのデータ収集、プログラムを発展させるための工夫

## 21 参考文献（と留意点）

---

- 小林明一「当世留学生事情：なぜ日本の若者は海外を目指さないのか」、2019年、<https://www.nippon.com/ja/currents/d00390/>より2020年3月31日引用。
- 内閣官房 内閣府 外務省 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 観光庁—「若者の海外留学促進実行計画」、2014年、1—13頁。
- 山口 さおり, 稲留 直子, 八代 利香, 新地 洋之—「学生海外研修における大学教員の役割と今後の課題」鹿児島大学医学部保健学科紀要、2016、26（1）、73—81頁。
- 山中司、河井亭一「留学による成長をいかに可視化し評価として担保するか—留学プログラム「グローバル・フィールドワーク・プロジェクト」の到達目標デザインに着目して—」、『立命館高等教育研究』立命館大学、第18号、2018年、163—176頁。
- **留意点**
  - サイトのファイルサイズ要件を満たすために発表当日の内容を若干変更しています、ご了承ください。

22



---

ご清聴  
ありがとう  
ございました